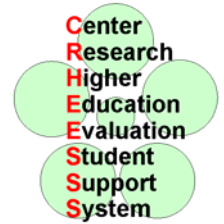


# 週刊センターニュース No.27



第27号(2004年9月14日)毎週月曜日発行  
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター  
URL: [http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou\\_rche/index.htm](http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm)

## 催し物のご案内

「かなざわまち塾 act ~ 市民交流広場 ~」が、開催されます。金沢大学の学生を含む、石川県内の大学・短大の学生たちが、企画・運営の中心となっています。是非、ご参加ください。

9月19日(日) 10時~17時、金沢中央公園、

詳細は <http://www.kanazawa-jc.or.jp/machijuku/index.htm> をご覧ください。

## 共同学習会のご案内

第37回 日時: 9月21日(火) (13時30分~15時)

場所: 角間キャンパス総合教育棟南棟2階 大会議室

講師: 木越 治 教授 (文学部 FD 委員長)

題目: 「文学部のFDについて」

なお、第37回に予定されておりました「工学部FDについて」は都合により延期しました。

## 明治学院大学ボランティアセンターと障害学生支援

本学の中期計画によれば、ボランティア窓口を今年度中に立ち上げることになっている。筆者は8月中に、石川県社会福祉協議会主催のボランティアコーディネーター研修会に参加し研修を受けたが、センターとして継続して情報収集を行っている。

さて、9月2日には、明治学院大学のボランティアセンターを訪問調査する機会を得た。文部科学省の昨年度のGPに選定された取組の中心となったセンターである。約1時間、コーディネーターの大島さんからセンターの活動について説明を受けた。多くの参考になる点があったが、障害学生支援をより適切に行うという課題を現在与えられている本学センターの一員として、一点だけここで紹介しておきたい。

具体的には、障害学生は授業料の半額を上限にして自分で支援のための経費の使い道を決めることができるというものである。大島コーディネーターの解説によると、障害学生本人が、1年生では苦勞しても、3年生くらいになると計画性を持ってやっているとのことである。他人に自分で支援を依頼する、しかも自分に必要な支援を金銭面を含めて自らコーディネートする・よく工夫されていると感心した。本当の意味での自律能力の開発につながる、そうした対応が教育の場としての大学の姿勢として重要だと思われた。

ボランティアコーディネートにしろ、障害学生支援にしろ、先達はあらまほしきもの、である。

(文責 青野)

## 学際的教育、導入教育について 京都大学総合人間学部の調査から

3学域への統合の検討が始まっているが、そのような議論に提供しうる情報の収集の一環として、今回京都大学の総合人間学部のカリキュラム調査および全学科目特に少人数ゼミの内容について聞き取り調査を行った。カリキュラムについては高等教育研究開発推進センターの林哲介教授よりお話を伺った。

京都大学総合人間学部は、平成4年に教養部廃止とともに設置されている。平成15年度に改組され、教員はすべて大学院人間・環境学研究科に所属することとなり、総合人間学部の教育と全学科目を担当する。平成15年度改組に伴い、人間科学系、国際文明学系、文化環境学系、認知情報学系、自然科学系の5学系に変更された。

総合人間学部では、入学後は学系を決めず言語履修に応じた理系、文系混合のクラス編成を行う。2年進級時に5つの学系に振り分けるが、学部設立から現在に至るまで学生の希望通りとしており、振り分けの調整は一切行っていないとのことであった。総合人間学部では、立ち上げと同時に副専攻制を導入している。初年次の学生は、2年進級時の主専攻、副専攻の選択を意識せずに自由に科目を選択する。1年生のうちに将来の進路について科目を選択しながらじっくりと考えることができる。このようなカリキュラムはレイトスペシャリゼーションとして知られ、東京大学、九州大学の21世紀プログラムなどがその例である。九州大学の21世紀プログラムについてはセンターニュース、共同学習会ですでに紹介した。1年次に履修したものは2年次進級時に主専攻科目、副専攻科目あるいは自由科目として振り分けられ認定される。学系間で副専攻科目として相互提供される科目群は、各学系ごとに指定しているが、どのような考え方で副専攻科目のパッケージ化が行われたか、さらに各学系間での副専攻科目履修の実績などについてさらに情報を収集する予定である。

平成15年度の再編に伴って新設された認知行動学系は、認知科学を中心に情報、数理、運動、言語がうまく統合され、学際性の高い学系として特徴的である。現在の脳科学は、計測技術の発展に伴って、言語、行動などより高次の機能へと展開しつつある。また、情報処理原理を脳に学ぼうとする研究展開があり、情報科学、数理科学の研究者も参加している。認知行動学系の編成は、脳科学の近年の進展にうまく合致させたものといえる。ただ、認知行動学系が用意している科目は十分あり、例えば情報科学関連の科目のみの選択で主専攻科目の単位を満たすことが可能である。総合人間学部では、必須科目は導入科目4単位に限られ、他はすべて選択必修となっており、学際的な選択にするか、あるいは例えば情報科学関連のみにするかは4年間を通じて学生自身に任されている。主専攻選択後も、その学系内において学生が進路選択について十分考えることが可能なカリキュラムといえる。

教養科目として、少人数ゼミを実施する大学が増えている。京都大学では平成10年度よりポケットゼミという科目名で実施されている。現在では130科目に及び、全新生の40%が受講している。そのほとんどは、各学部がボランティア的に提供している。東北大学も同様のゼミを始めている。アンケート調査も実施され、学生、教官双方にきわめて評判がよいとのことであった。少人数ゼミにより初年次に先端研究について教官と学生とがコミュニケーションをとることは、導入教育としてきわめて有効であると思われる。（文責 西山）

## **センター教員活動記録**

2004.9.4,5 第41回大学教員セミナー eラーニングと大学教育に参加

（主催：財団法人大学セミナー・ハウス）会場：八王子大学セミナーハウス（堀井 公費出張）

2004.9.6 日弁連法務研究財団「評価委員会」に、同委員会幹事として出席（早田）

2004.9.7-9 平成16年度大学情報化全国大会（eラーニングの実際）に参加

会場：アルカディア市ヶ谷 東京（堀井 公費出張）

2004.9.11,12 「日本教育社会学会第56回大会」（於：東北大学）に参加。空き時間を利用して

「宮城県・仙台市聴覚障害学生情報保障支援センター」の代表と面談し、障害学生支援に関する情報収集。（青野 公費出張）

2004.9.13 第7回金沢大学教養教育全学研究会に参加（青野、早田、西山）

「金沢大学における障害学生支援の現状と課題」について報告（青野）